

意見・提言概要一覧表

元気づくりプログラムについて

項番	件名	内 容	プログラム	回 答
1	防災について	現在の事業内容で大震災に対処できるのでしょうか。	2-1 住みやすさ向上プログラム	大地震の発生予想については、国が毎年「全国地震動予想地図」で公表しており、津市においては、今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が85.9%と非常に高くなっています。 一方、三重県においては、より実効性の高い地域防災計画の策定に向けての基礎資料とするため、平成18年に被害想定調査を実施しています。 この調査報告における津市の被害状況は、東南海地震発生後に南海地震が数十時間程度以内に発生する場合が最も被害が大きく、発生する時期によって相違するものの、その概要の最大については、死者は468人、全壊・消失、半壊を合わせて約32,000棟、避難者数は約16,000人と想定しています。 このことから、災害に強いまちづくりを目指して、災害情報の収集・伝達体制の整備を始め、自主防災組織などの地域防災力の育成、避難所・避難体制の整備のほか、住宅の耐震化・家具の転倒防止、公共施設の耐震化など、様々な整備を図っているところです。 今後におきましても、東海・東南海・南海地震への対応など、いつ発生するか予測できない災害に備えて、自助・共助・公助の役割分担のもと、地域の皆様の御理解と御協力を得ながら、引き続き地震対策の推進に努めていきたいと考えております。
2	「津市民防災大学」の開催場所について	昨今想定される地震の大きい被害場所は沿岸部と言われていることから、沿岸部の方が参加しやすい開催場所を考えた必要があるのではないかと。	2-1 住みやすさ向上プログラム	津市民防災大学は、大規模災害などの発生に備え、防災知識の豊富な人材を育成し、防災活動の活性化を図ることを目的として、防災に関する分かりやすい講義や演習・実習等の体験学習を通して、市民の皆様に防災活動に関する知識や技術等を学んでいただくものです。 このような中、当大学の講義に関する企画や運営については、市民の皆さんによる津市民防災大学実行委員会が主体となって行っており、開催場所についても当実行委員会において協議・決定しているところです。 現在の開催場所については、会場までのアクセス等を考慮しつつ、会場の規模や空き状況により選定されておりますが、これまでも開催場所の地域持ち回りや分散化等についての御意見も寄せられておりますことから、今後、実行委員会において協議してまいりたいと考えています。
3	自主防災について	機能不全の地域が多い。もう少し自立的主体的に地域が取り組めるまでバックアップする必要を感じる。	2-1 住みやすさ向上プログラム	自主防災組織は、自助・共助・公助の役割分担のもと、地域住民が自分たちの地域は自分たちで守るという理念のもと結成された組織として、日常的に、防災知識の普及啓発、防災訓練や地域の防災安全点検の実施、防災資機材の点検等を行い、災害時には、情報の収集・伝達、初期消火、住民の避難誘導、負傷者の救出・救護等の活動を行うことが期待されています。 このような中、本市といたしましても、地域における自主防災活動を支援するため、各総合支所に危機管理担当副参事を配置し、各地域の状況に応じた対応ができるよう体制を整えているところです。 また、地域における自主防災活動が円滑に実施されるよう、自主防災組織結成時における防災資機材の貸与や防災資機材等整備に係る補助、自主防災協議会各支部が実施する活動への補助を行っているほか、地域で実施される防災訓練や研修会等へ講師として職員を派遣しているところです。 今後につきましても、地域の自主防災活動が活性化されるよう、当該組織のニーズ等も把握しながら、支援してまいりたいと考えています。
4	防災訓練	実際の災害では、沿岸部と山間部ではかなり状況が異なると思われるが、地域性を考慮した訓練が行われているのか。 また、住民が他人事と感じているように思うが、訓練は地域に還元されているのか。 地域ごとの手法を考えるとともに、関係者（社協、ボラ連、防災大学修了者、防災コーディネータ等）との連携が重要ではないか。	2-1 住みやすさ向上プログラム	防災訓練の実施については、津市総合防災訓練のほか、市町村合併前の旧市町村において、毎年、総合支所、自主防災組織等が中心となり、防災訓練が実施されています。このほか、年間市内各地の単位自治会等では防災学習会等と合わせて、約600回程度の防災訓練が実施されており、住民参加型の訓練として、避難参集訓練、応急処置実施訓練、消火ホースによる消火訓練や土のう積みなどの水防訓練を取り入れるなど、その地域の実情に応じた訓練内容が実施されていると認識しております。 しかしながら、これらの訓練へ参加する住民が特定されている実情も見受けられ、今後、多くの方に御参加いただくよう訓練内容等の課題もありますが、各種訓練を通じて、地域住民の方々の防災意識は向上しているものと考えております。 このような中、本年8月に津市全体の自主防災組織に係る協議会を設立し、各地域の当該組織が抱える課題、問題点の整理のための協議や、防災リーダーの育成など、努めていくこととしております。 また、毎年、実施しております津市総合防災訓練には、津市や警察、自衛隊等の防災関係機関のほか、昨年度の当該訓練では、津市社会福祉協議会、災害救助犬協会、津市ボランティア連絡協議会、津市民防災大学など、多数参加いただいておりますが、地域における防災訓練についても、このような関係団体の皆様の参加について、災害時における連携の観点から重要であることから、先程の津市自主防災協議会に協議してまいりたいと考えております。

5	学びについて	<p>高齢者の教育（生涯学習等）もさることながら義務教育の強化が必要ではないか。 例えば、ゆとり教育から脱却して土曜日授業の再開とか。</p>	<p>2-3 元気な人づくりプログラム</p>	<p>学習指導要領が改訂され、小学校では来年度から、中学校では再来年度から学習内容が増えた新しい教科書を使うことになっています。 教育委員会としましては、津市の子どもたちに確かな学力を育むため、「ゆとり教育」か「つめこみ教育」かといった二項対立を超えて、基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、観察・実験やレポートの作成、論述などの学習活動を充実すること、さらに総合的な学習の時間に行う探究活動の充実を図ることなどにより思考力・判断力・表現力等を育成することを大切にまいります。 本年度もこれらの実現に向けて、津市の子どもたちが「学ぶ楽しさ」や「活動する楽しさ」を味わうことができる授業づくりを支援するため、各学校の校内研究の充実や教員の自主研修の場の充実を図っております。 なお、授業時間数につきましても学校週5日制は維持されますが、小学校では国語、社会、算数、理科及び体育の授業時数が増加するとともに、高学年に外国語活動が新設されます。また中学校では、国語、社会、数学、理科、外国語、及び保健体育の授業時数が増加します。</p>
6	津ぎょうざプロジェクトについて	<p>津ぎょうざについて、引き続きPR活動を行うとともに、市民・大学生等と協働して、新しい味の津ぎょうざやおみやげ商品の開発を提案します。</p>	<p>2-3 元気な人づくりプログラム</p>	<p>【市民部】 津ぎょうざは、津市げんき大学の津ぎょうざプロジェクトを発端に、平成22年5月に津ぎょうざ協会発足に至り、現在、市内外の方々に食べていただけるようになりました。 御提案の新しい味の津ぎょうざやおみやげ商品の開発につきましては、各店舗で新商品の開発に取り組まれているとともに、津ぎょうざ協会においても検討が行われています。 今後も、元気な津市を目指し、津ぎょうざという商品の一つの切り口として、津市げんき大学や津ぎょうざ協会と連携した事業展開に積極的に取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>【商工観光部】 津市げんき大学が取り組まれている「津ぎょうざ」の新たな味、商品の開発を側面支援する事業として、津市において、「津ぎょうざ揚げ上げ」事業を本年度から実施しています。 この事業は、3ヶ年計画を予定しており、1年目は津市内における「津ぎょうざ」の更なる認知度向上と消費拡大を目的に、「津ぎょうざガイドブック」を作成しました。 また、同時に市内の「津ぎょうざ」取扱店22店舗の協力を得て、スタンプラリーも実施しています。 新たな味の開発といたしましては、11月1日より「津ぎょうざ」のレシピを市内在住、在勤、在学の方々より募集する「津ぎょうざ」レシピコンテストを実施する予定です。 1次審査を書類選考とし、最終審査を平成23年2月27日に実作審査することとしています。 翌2年目以降は、「津ぎょうざ」のPRを県内はもとより東海地区へと拡げ、3年目に「津ぎょうざ」のB1グランプリへの出場が果たせるよう、官民一体となり「津ぎょうざ」のPRに努めます。</p>
7	交流による活力創造の推進	<p>豊かな自然環境や森林文化に触れる新たな交流機会を提供し、市民参加により、元気づくりを推進するとともに、市民による環境活動や機能の高い豊かな森林づくりの推進が必要です。</p>	<p>2-4 交流による活力創造プログラム</p>	<p>【農林水産部】 昨年度より市内の小学生とその保護者を対象にした「森林教室」を開催し、森林の働きについての学習会や木工教室等を通じ、荒廃が進む人工林の現状と公益的機能を有する市民共有の財産であることの理解を深める機会を提供しています。 また、市民が主体となって取り組まれている里地里山保全活動への支援や企業の社会貢献活動による森づくりへの協力等を行っており、今後も行政主体による間伐等の推進だけでなく、多角的な取り組みによる森林づくりを進めていきます。</p> <p>【環境部】 平成20年3月に策定された環境基本計画において、「山、川、海、人が共生する元気なまち 津」を環境像とし、様々な環境施策を市民の方々・事業者の方々・市の協働により取り組みを進めております。 具体事業としまして「山・川・海ネットワーク事業」は、山から海までの各地域の住民ネットワークづくりを進めることを目的に、新雲出川物語推進委員会に事業を委託し、山川海ネットワークの森造成事業、下草刈り、雲出川・家城ラインエコウォーク、浜辺学習会等を実施しています。 また、「森林自然アカデミー事業」は、三重大学の演習林施設を活用し、環境活動の拠点づくりを行うことを目的に、三重大学と連携し、子ども樹木博士、溪流魚と水生昆虫の生態観察等を開催しています。 今後も、市民・事業者、市の協働による環境活動や啓発活動に取り組んで参りたいと考えています。</p>
8	新都心軸の形成について	<p>新都心軸の形成に向けた検討が進められ、基本計画が策定されることから、検討結果の論点を明らかにし、事業の方向性を明確にすべき。</p>	<p>2-4 交流による活力創造プログラム</p>	<p>平成20年度に実施いたしました「新都心軸拠点導入機能等調査研究」につきましては、都市計画、都市交通にかかわる学識経験者の専門的な意見を伺いながら、総合計画に示す基本方針や既存の各種調査結果等を踏まえつつ、本市における将来の都市構造等から、新都心軸の必要性や役割、各拠点地区への導入機能のあり方、拠点地区間の連携のあり方等を予備調査（実現可能性調査）的な形で、調査・研究を行ったところです。（別紙「新都心軸構想」リーフレット） また、平成21年度からは「新都心軸連携計画等策定業務」として、平成20年度の成果をたたき台として、市民参加を図りながら、各拠点地区の開発整備と拠点連携に関する基本計画の策定に取り組んでいるところです。 これまで、「シンポジウム」、「まちづくりオープンハウス」、「新都心軸のまちづくりを考える市民懇話会」を実施して、市民のみなさんのご意見などを伺いまして、市としての方向性を明示できるよう検討しているところですが、都市計画や環境問題など解決しなければならない諸課題が多くありますので、具体化できる部分については具体化しながらも、詳細な施策や土地利用については、市民のみなさんの合意形成を図りながら進めてまいりたいと考えておりますので、市民参加型のまちづくりの仕組みも併せて検討してまいりたいと考えております。</p>

9	まち歩きシステムの整備について	各地域のまち歩きシステムの整備、特に美杉地域は進んでいるものの、中心市街地のシステム整備を進め、津市全体の一体的なまち歩きシステムの整備を進めるとともに、コミュニティバスとの調整を含めて地域と中心市街地とが身近になるようにするべき。	<p>2-4</p> <p>交流による活力創造プログラム</p>	<p>【商工観光部】</p> <p>津市には7つの歴史街道があり、これらの歴史・文化や自然を活かした「まち歩きシステム」の整備が必要であると認識しており、前期基本計画では15か所50コースのまち歩きコースの設定を目標に掲げております。</p> <p>具体的な取組みといたしましては、平成19年度からの3か年事業として、中心市街地と各地域に点在する観光資源を結ぶループバスを運行し、それぞれの地域におけるまち歩きコースの整備を行う「津らくらくフェスタ事業」を実施し、一体的なまち歩きシステムの整備に取り組んでまいりました。</p> <p>また、平成21年度からは、まち歩きシステムとも連動した四季に応じた市内観光ルートを設定し、これら観光資源を巡る「観光地巡回バス運行事業」を試行的に実施しておりますことから、更に域内交流が図れるよう巡回バスとコミュニティバスとの連携の可能性について検討してまいります。</p> <p>【都市計画部】</p> <p>コミュニティバスにつきましても、市内のよりよい公共交通システムを研究していくうえで、地域と中心市街地が身近になるような運行を検討していきたいと考えております。</p>
10	交流人口100万人の創出をめざした取組について	海と山は、津市の魅力の主力である。PRの取組を進めるとともに、特に山間部の活力維持のために全市的な協力体制がとられるべき。	<p>2-4</p> <p>交流による活力創造プログラム</p>	<p>本市が有する海と山の自然と歴史・文化資源を観光資源として捉え魅力向上させることが、観光誘客を促進し交流人口100万人の創出につながるものであると認識しております。</p> <p>特に山間部の振興につきましては、観光的な側面を活かした交流人口の拡大につながる仕組みづくりが必要でありますことから、たとえば美杉地域におきましては森林セラピー事業や多気北畠氏城館跡や伊勢本街道などの歴史資源、さらには農林業の体験型観光の開発などについて、都市部との交流を促進する中で全市的な取組みとして進めてまいりたいと考えております。</p>
11	「江」に関連した取組について	2011年のNHK大河ドラマの題材が「江」となったことから、地域の活性化のため、これに関連した取組みを、積極的に進めるべき。	<p>2-4</p> <p>交流による活力創造プログラム</p> <p>2-5</p> <p>津らしさ実感プログラム</p>	<p>平成22年3月に、三重県、三重県観光連盟、津市、津市観光協会、津北商工会、三重県商工会議所連合会、津商工会議所で構成される、大河ドラマ「江」地域活性化推進協議会を設立し、官民一体となって「江」ゆかりの地として津市を全国に向けて発信すべく様々な事業を展開します。</p> <p>その内容といたしましては、市民の方々に「江」を知っていただくための講演会などのイベント開催事業、ホームページの開設やのぼり旗の作成・掲出、旅行雑誌等への広告掲載などの広報宣伝活動事業、またキャラクターである「ゴーちゃん」の着ぐるみを活用し県内外へPRするキャラバン隊事業、更にはボランティアガイドの育成や土産等「江」に関する商品開発の支援など受入体制整備事業などに積極的に取り組みます。</p> <p>また、三重県におかれましても、観光旅行商品として、来年1月から伊勢・鳥羽より「江」ゆかりの地を巡る周遊バスを運行させることとしています。</p>
12	津(2)デイウォークの実施について	津市の歴史・観光資源を活用し、「津」とかけた2日間のウォーキングイベントを開催してはどうか。注目される題材(高虎・お江)を活用すべき。	<p>2-4</p> <p>交流による活力創造プログラム</p> <p>2-5</p> <p>津らしさ実感プログラム</p>	<p>【商工観光部】</p> <p>津市に宿泊していただき少しでも長く滞在していただくことが地域の活性化につながるものであり、大変有意義な提案であると考えますことから、提案の趣旨を踏まえながら2日間のウォーキングコースと宿泊を組み合わせたイベントについて、関係団体等とも協議しながら検討してまいります。</p> <p>高虎公やお江の活用につきましては、特に来年1月からの大河ドラマ「江」の放映は、津市を全国に情報発信する絶好の機会でありますことから、より多くの方々が津市に訪れていただき、高虎公をはじめとする津市の観光資源を見ていただき、津市のファンとなっていただくような取組みを地域や関係団体などと一体となって推進してまいります。</p> <p>【スポーツ文化振興部】</p> <p>現在、スポーツ文化振興部文化振興課におきまして、「歴史街道ウォーク」を実施しております。これは藤堂高虎公入府400年記念事業において開催いたしました「街道ウォーク」を継続実施し、市内を通る7つの街道を通じて、歴史・文化や豊かな自然に触れていただくものです。</p> <p>今年度も、11月に「伊勢街道・伊勢別街道コース」としまして、お江ゆかりの地である本城山青少年公園(上野城跡)や一身田寺内町をめぐる約12kmのウォークを実施する予定です。</p> <p>ウォークイベントにつきましては、近年の健康志向や、歴史への関心の高まりもあり、参加者も増加傾向にあります。</p> <p>今後も、こういったウォークを市内各所で実施し、観光協会といった関係団体とも連携し、効果的にイベント実施を行うことにより、歴史・文化や豊かな自然の再発見、市民交流による活性化、観光振興などを図ってまいりたいと考えております。</p>

13	地域間交流について	<p>各地域において、元気な暮らしや地域力の向上に係る取組が進められているが、現実としてますます地域間格差の拡大が懸念される。</p> <p>津市民としての実感の持てる地域間の交流の在り方を模索することが重要である。</p>	<p>2-4</p> <p>交流による活力創造プログラム</p>	<p>津市は、全国的にも希な10か市町村の合併を行ったことから、総合計画の基本構想において、「まちづくりにあたっては、地域の個性・特性を認め合うことと、合併に伴う一体感をつくること、この2つの要素をうまく組み合わせながら、市民生活のレベルアップを図っていく必要があります。」との認識の下、3つの基本理念の一つに「交流」を掲げ、豊かな自然の恵みを活かした暮らしが営まれるとともに、都市と農村との連携や広域的な連携、さらには男女共同参画や多文化共生など、新たな交流を育むことで、多様性を尊重した一体感のあるまちをめざした取組みを進めております。</p> <p>一例といたしましては、地域かがやきプログラムにおいては、市域を東部、北部、中部、南部の4エリアに分け、それぞれのエリアの特性や資源を活かし、個性が輝く地域づくりを進めるための取組みを進めております。</p> <p>委員の御意見にもございますが、「地域間格差」というのは、住民意識の格差、つまり、気持ちの中で、合併前の市町村の枠組みと変わらない範囲でまちづくりをとらえておられる方々や、そうではなく、旧来の枠組みにとらわれず、現在の津市全体の中での地域のあり方、まちづくりを考えておられる方々というような意識の持ちようを指しておられるのではないかと思います。</p> <p>このような、住民の方々の考え方には地域による違いもあるように思いますので、地域の個性を生かしたまちづくりを進めるとともに、「交流」をキーワードとした取組みを様々に推進することで、津市民としての実感の持てるようなまちづくりを進めてまいりたいと考えております。</p>
----	-----------	--	----------------------------------	--

その他の御意見、御提言

項番	件名	内容
14	健康づくりについて	<p>高齢化のすすむこの頃、どうか自分で何事も出来ることを私は希みます。それには日頃から気をつけて運動や頭をつかう事を進んでやるように心掛けています。ボケないように…</p> <p>ボランティア活動もその一つであると信じています。</p> <p>いくつまでそれが出来るか…</p> <p>心配しながら毎日を過ごしている私ですが、皆様もそうだと思います。</p>